

石狩川中流域における歴史遺産の再活用

- 日 時：9月26日(土) 9:00～17:00
- コース：J R札幌駅北口(集合)～東苗穂地区再開発～月形樺戸博物館<見学>～「樺戸道路」～三笠工業団地～イオンスーパーセンター三笠店<昼食>～北炭幌内炭鉱幌内立坑槽～住友奔別炭鉱立坑槽<見学>～弥生地区炭鉱住宅～三井美唄互楽館～三菱美唄記念館<見学>～炭山の碑 YAMANO HI<見学>～アルテピアッツァ美唄<見学>～J R札幌駅北口(解散)
- 参加者：16名
- 案内者：松井裕治(札幌市立栄町小学校)、橋本雄一(北海道大学)、金森正郎(札幌東高校)、高橋伸幸(北海学園大学)、山下亜紀郎(酪農学園大)

2009年度の秋季大会(巡検)は、「石狩川中流域における歴史遺産の再活用」をテーマに、開拓に関わる歴史的施設や炭鉱跡地などの歴史遺産を見学した。コースは、月形町と三笠市岡山地区を結ぶ「樺戸道路」を軸に、石狩川中流域を縦断するコースを設定した。

JR札幌駅北口を出発したバスは、都心地区から国道275号線に進み、札幌の再開発の状況について車中より見学、議論した。国道275号線沿いの東苗穂地区の再開発の状況についても車内から観察した。

石狩川中流域の開拓の拠点になった当別町市街地を通り、最初の見学地である月形樺戸博物館に向かった。月形樺戸博物館は旧樺戸集治監本庁舎と博物館などからなる博物館で、町名の由来ともなった樺戸集治監初代典獄月形潔など、集治監の歴史を示した資料が展示されている。囚人の一人であった熊坂長庵の絵が展示されているのも、この博物館の見所のひとつである。

月形樺戸博物館からは「樺戸道路」を通り、途中、

車内から石狩平野の地形について観察しながら、三笠市岡山地区に向かう。岩見沢市と三笠市の境界地域にまたがる岡山地区には産炭地域振興策として工業団地の造成が進められた地域である。工業団地内に誘致されたイオンスーパーセンター三笠店内で昼食となった。

昼食後は、三笠市から美唄市にある炭鉱遺産のいくつかを見学した。三笠市街地を抜け、まずは北炭幌内炭鉱幌内立坑槽を車内から、さらに住友奔別炭鉱立坑槽を下車して、弥生地区炭鉱住宅は車内から見学した。美唄市に入り、三井美唄互楽館など南美唄地区の市街地を車内から見学し東美唄地区に向かった。

東美唄地区では三菱美唄記念館を見学後、三菱美唄炭鉱跡に立てられたモニュメント「山の碑 YAMANO HI」を見学した。「山の碑」は美唄市出身の著名な彫刻家安田侃氏の作品である。安田侃氏はJR札幌駅や札幌コンサートホールKitaraで札幌市民にはおなじみ彫刻家である。

最後の見学地は、炭鉱地区の小学校跡を利用したアルテピアッツァ美唄である。アルテピアッツァ美唄は安田侃氏の個人美術館で、現在全国的にも注目を集めている。ここで、1時間ほどの見学、作品鑑賞の後、高速道で札幌に向かった。

本年度の秋季大会は、昨年度に引き続き札幌地理サークルと北海道教育地図研究会との3団体による共催大会になった。このことにより参加者には、小・中学校、高校、大学、研究機関、行政機関など地理学に係わるさまざまな立場からの参加者がそろうことになった。地理学を軸にさまざまな立場から率直な意見交換ができる、ローカルな大会のひとつの方向性を示しているのかもしれない、とも思える大変有意義な大会になった。(金森 正郎)

会 報

2009-2010年度

1. 2009年度春季大会記事

2009年度春季大会は、6月28日（日）に北海学園大学豊平キャンパス7号館にて開催された。以下の通り、一般研究発表、公開講演会および総会が行われた。

●一般研究発表（10：00～12：05）

塩崎大輔（北海道大学・院）・氷見山幸夫（北海道教育大学旭川校）：1980年以降における我が国の都市開発の動向

川村真也（北海道大学・院）・橋本雄一（北海道大学）：室蘭市南部における高齢者の歩行空間分析

水木千春（北海道大学・院）：都市地域における洪水のための取り組みに関する評価：東京都北区を事例として

リ ゲンリョウ（北海道大学・院）・渡辺悌二（北海道大学）：台湾、雪霸国立公園の登山道荒廃

渡辺悌二（北海道大学）：パキスタン北部、フンジェラブ国立公園の管理とシムシャル村の対立

高橋伸幸（北海学園大学）：大雪山高山帯における1990年代以降の気温動向

土井時久（岩手県立大学・名誉教授）・今井敏信（弘前大学・名誉教授）：戦前期北海道における薄荷生産の立地変動と価格反応

● 公開講演会（13：40～15：00）

手塚 薫（北海学園大学）「ビーヴァーと毛皮交易－ファー・フェルト・ハットのその後－」（札幌地理サークルと共催）

● 総会（15：10～16：00）

・2008年度事業報告・決算報告・監査報告について

庶務委員会より2008年度事業報告および決算報告、会計監査より監査報告がそれぞれあり、いずれも承認された。事業報告の内容は、次に挙げる4項目だった。1）機関誌「地理学論集」第83号を刊行、2）春季大会の開催、3）秋季大会の開催、4）「グローバル環境地図作品コンテスト」（環境地図教育研究会）および第18回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」（環境地図教育研究会）の後援。なお2008年度末の会員は、顧問5名、普通会員133名、学生会員30名であった。

2008年度決算報告（カッコ内は予算額）

（収入）

会費	255,000 (367,850)
雑収入	0 (48,000)
＜広告料	0 (40,000)＞
＜会誌販売	0 (4,000)＞
＜寄付金	0 (4,000)＞
前年度繰越金	447,646 (447,646)
計	702,646 (863,496)

（支出）

会誌印刷費	177,210 (250,000)
事務費	9,610 (10,000)
通信費	38,045 (45,000)
＜学会誌郵送	11,205 (15,000)＞
＜大会関係	26,840 (25,000)＞
＜その他	0 (5,000)＞
謝礼	0 (10,000)
秋季大会補助	674 (10,000)
会議費	5,000 (0)
予備費	0 (533,496)
次年度繰越金	477,107 (0)
計	702,646 (863,496)

※会誌印刷費は第83号分。

・2009年度事業計画案・予算案について

庶務委員会より2009年度事業計画と、それに伴う予算案が提出され、承認された。事業計画案の内容は、次に挙げる4項目だった。1）機関誌「地理学論集」第84号を刊行、2）春季大会の開催、3）秋季大会の開催、4）第19回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」（環境地図教育研究会）および「GIS DAY in 北海道 2009」（酪農学園大学）の後援。これに伴う予算案が庶務委員会より提案・説明され、承認された。

2009年度予算案：

（収入）

会費	367,850
雑収入	10,000
前年度繰越金	477,107
計	854,957

※会費収納率70%にて計算。

(支出)	
会誌印刷費	300,000
事務費	50,000
通信費	55,000
＜学会誌郵送＞	15,000＞
＜大会関係＞	25,000＞
＜その他＞	15,000＞
謝礼	10,000
秋季大会補助	20,000
会議費	5,000
予備費	414,957
計	854,957

※会誌印刷費は第84号分。

・その他

編集委員会より、投稿規定および執筆要領の一部を改訂したい旨の提案があり、承認された。なお、この改訂は2010年度発行の85号より適用されることになった。

2. 2009年度秋季大会記事

2009年度の秋季大会として、9月26日（土）に、北海道教育地図研究会・札幌地理サークルとの共催で巡検を実施した。案内者は、松井裕治（札幌市立栄町小学校）、橋本雄一（北海道大学）、金森正郎（札幌東高校）、高橋伸幸（北海学園大学）、山下亜紀郎（酪農学園大）で、実施に当たっては貸切バスを使用した。コースは次の通りである。J R 札幌駅（北口）→当別伊達記念館（伊達邸別邸）→月形樺戸博物館（樺戸集監監）→岡山地区の工業団地（昼食）→炭鉱資源群（住友奔別炭鉱立坑、弥生地区の炭鉱住宅、炭鉱メモリアム森林公園など）→アルテピアッツァ美唄（小学校跡）→J R 札幌駅。終了後に懇親会を開催した。詳細については、本号掲載の巡検報告を参照されたい。

3. 2009年度後援

・10月25日開催の第19回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」（環境地図教育学会主催）における優秀作品に対して、北海道地理学会会長賞を授与した。

「東京区民農園分布調査」

筑波大学附属駒場中学校1年 岩本 萌

「今も昔も豊平川」

北海高等学校2年 水谷詩歩、戸田美希

4. 2010年度春季大会記事

2010年度春季大会は、6月27日（日）に北海学園大学豊平キャンパス7号館にて開催された。以下の通り、一般研究発表、公開講演会および総会が行われた。

●一般研究発表（10：00～12：05）

小林 勇介（北海道大学・院）：京都西南部における竹林の分布変化について

阿部洋祐（北海道大学・院）：南アルプス三峰岳における最終氷期以降の氷河・周氷河地形発達史と岩石氷河形成過程

川村真也（北海道大学・院）・橋本雄一（北海道大学）：積雪寒冷地域における高齢者の生活環境分析－室蘭市南部を事例地域として－

仁平尊明（北海道大学）：農業のエネルギー効率と作物産地

初沢敏生（福島大学）北海道江差町におけるエゾバカガイ漁の資源管理

●公開講演会（13：30～15：00）

北海道地理学会会長 高橋伸幸（北海学園大学）

「大雪山高山帯の自然」（札幌地理サークルと共催）

●総会（15：10～16：00）

・2009年度事業報告・決算報告・監査報告について

庶務委員会より2009年度事業報告および決算報告、会計監査より監査報告がそれぞれあり、いずれも承認された。

事業報告の内容は、次に挙げる4項目だった。1）機関誌「地理学論集」第84号を刊行、2）春季大会の開催、3）秋季大会の開催、4）第19回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」（環境地図教育研究会）および「GIS DAY in 北海道 2009」（酪農学園大学）の後援。なお2009年度末の会員は、顧問5名、普通会员135名、学生会員27名であった。

2009年度決算報告（カッコ内は予算額）

(収入)	
会費	307,500 (367,850)
雑収入	12,000 (10,000)
前年度繰越金	477,107 (477,107)
計	796,607 (854,957)

(支出)	
会誌印刷費	262,710 (300,000)
事務費	66,647 (50,000)
通信費	38,045 (45,000)
＜学会誌郵送	13,710 (15,000)＞
＜大会関係	22,240 (25,000)＞
＜その他	4,910 (15,000)＞
謝礼	10,000 (10,000)
秋季大会補助	2,100 (20,000)
会議費	987 (5,000)
予備費	0 (414,957)
次年度繰越金	413,303 (0)
計	796,607 (854,957)

※会誌印刷費は第84号分.

・2010年度事業計画案・予算案について

庶務委員会より2010年度事業計画と、それに伴う予算案が提出され、承認された。事業計画案の内容は、次に挙げる4項目だった。1)機関誌「地理学論集」第85号を刊行、2)春季大会の開催、3)秋季大会の開催(東北地理学会との合同大会)、4)第20回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」(環境地図教育研究会)および「GIS DAY in 北海道 2010」(酪農学園大学)の後援。これに伴う予算案が庶務委員会より提案・説明され、承認された。

2010年度予算案:

(収入)	
会費	368,550
大会補助	170,000
雑収入	10,000
前年度繰越金	413,303
計	961,853

※会費収納率70%にて計算.

(支出)	
会誌印刷費	250,000
事務費	30,000
通信費	60,000
＜学会誌郵送	15,000>
＜大会関係	30,000>
＜その他	15,000>
謝礼	0
秋季大会補助	200,000
会議費	5,000
予備費	416,853
計	961,853

※会誌印刷費は第85号分.

5. その他

・会員消息(会誌84号掲載以降、敬称略)

入会: リンデンリョウ(北海道大学大学院環境科学院・院), 浅田 孟(北海道大学大学院文学研究科・院), 仁平尊明(北海道大学大学院文学研究科)

退会: 佐々木 巽, 沼田尚也, 鳥居栄一郎, 相馬絵美, 遠藤陳由

北海道地理学会会則

- 第1条 本会は北海道地理学会と称する。
- 第2条 本会は地理学についての研究を目的とし、併せて地理教育にも資する。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
研究助成、研究発表、調査、講習、講演、研究報告書刊行など。
- 第4条 本会に入会するときは当該年度の会費を添え申込むものとする。
- 第5条 会員が退会するときはその旨を本会に通知すればよい。
- 第6条 本会に次の役員を置く。
会長1名、副会長2名、監査2名、幹事若干名。
- 第7条 役員のうち会長、副会長、監査は会員の互選によって決定し、幹事は会長の委嘱による。
- 第8条 本会に顧問を置くことができる。顧問は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- 第9条 総会は毎年1回開催し、予算の決定、役員を選出、その他の重要事項の審議を行う。
- 第10条 役員会は必要に応じ随時開催する。
- 第11条 会員は会費年額3,500円を負担する。但し学生会員は年額2,000円とする。学生会員は、学部学生、大学院生、研究生などとする。
- 第12条 本会の事務局は当分札幌に置く。
- 第13条 この会則の変更は総会の決議によって行うものとする。
- 第14条 会計は4月1日より、翌年3月31日までとする。
- 第15条 役員任期は、7月1日より翌々年6月30日までの2年とする。

附則

- 本会会則は昭和25年12月1日から実施する。
- 会則第5, 6, 9, 11, 12, 15, 16条, 第17回総会で改正。
- 会則11条改正 (1981年6月)。
- 会則11条改正 (1987年6月)。
- 会則11条改正 (1993年6月)。
- 会則11条改正 (1999年6月)。
- 会則6, 7, 9, 13, 14条改正 (2003年6月)。
- 会則15条削除 (2003年6月)。

「地理学論集」の投稿規定および執筆要領

(2010年度より適用)

投稿規定

1. 投稿の資格

特別の場合を除き、投稿は本学会の会員および顧問に限る。共著論文の場合は、著者に本学会の会員あるいは顧問が1名以上含まれていることを投稿の条件とする。

2. 原稿の種別・原稿の長さ

(1) 原稿の種別

論文、研究ノート、総説、資料、フォーラム、巡検報告、書評、抄録など。

論文：地理学・地理教育に関するオリジナルな研究成果をまとめたもの。

研究ノート：上記に準じた、研究の中間報告・予報・短報など。

総説：国内外の地理学・地理教育および関連分野の研究動向や諸問題に関して、総括的かつ学術的に論評、解説、紹介したもの。

資料：データの発見・発掘など他の研究に資するもの。

フォーラム：地理学・地理教育に関する提言や紹介（例：教育現場での取り組みの報告、調査研究のアイデア提示、国内外研究機関訪問記、紀行など）。

巡検報告：本会ならびに地理学に関連した学術大会巡検をまとめ、紹介するもの。

書評：最近の地理学・地理教育および関連分野の出版物の意義および内容を紹介したもの。

抄録：国内外の地理学・地理教育および関連分野の論文の内容を要約して紹介したもの。

(2) 原稿の長さ

原稿の長さ（図表を含めた刷上がり頁数）は、論文・研究ノート、総説、資料については原則として15頁以内とする。フォーラムについては10頁以内、巡検報告については5頁以内、書評は本文のみで1頁、抄録は本文のみで半頁とする。超過頁の経費は原則として著者が負担する。

3. 原稿の使用言語

使用言語は、原則として日本語か英語とし、いずれの言語の場合も英文および和文のタイトル・著者名・著者所属先名・4～5語のキーワードを添えること。英文原稿の場合は400～800語程度の和文要旨、または800～1200語程度の英文要旨を添えることができる。また、和文原稿の場合は800～1200語程度の英文要旨を添えることができる。

4. 原稿の採否と編集

論文、研究ノート、総説、資料については査読者を選定し、査読者の意見を参考に編集委員会が原稿の種別と採否を決定する。内容によっては、図表を含め、査読者の意見を参考に修正・書き直しを編集委員会が投稿者に依頼し、その結果により受理を再検討する。受理された原稿は編集委員会で編集する。フォーラム、巡検報告、書評、抄録については編集委員会が採否を決定する。

5. 原稿の送付と別刷り

原稿の送付は事務局または編集担当宛とし、原稿送付状を添付すること。原稿を電子媒体で準備できる場合は、メール添付やCD-ROMでの投稿を推奨する（その場合、原稿送付状はスキャンして画像ファイルにするか、メール本文に同内容を記載すること。送信先メールアドレスは次頁を参照のこと）。紙媒体（郵送）での投稿の場合は、原稿と図表写真のコピー3部（ただし、写真はオリジナル1部とコピー2部）を送付し、受理決定後に、オリジナルの図表と電子媒体による完成原稿を送付すること。

別刷りは、論文、研究ノート、総説、資料、フォーラムに限る。別刷りの費用は有料（時価）とし、全額を著者負担とする。

6. 原稿の校正

初校は原則として著者が行い、その後の校正は編集委員会で行う。

執筆要領

1. 本文

(1) ワードプロで作成する場合は、A4サイズ用の紙設定で、漢字で1行30文字、1頁30行に合わせる。英文の場合はダブルスペースとし、和文・英文ともにじゅうぶんなマージンをとること。ワードプロによらない場合は、編集委員会に問い合わせること。論文、研究ノート、総説、資料、紹介については、和文原稿の場合は、最初の頁の1行目は日本語タイトルで2行目は欧文タイトル、タイトルの次の行は和文と欧文著者名で、著者名の末尾の右肩にアスタリスク(*)を付し（連名の場合、2番目以降の著者はその順番の数のアスタリスク）、次の行にアスタリスクと和文・欧文の著者所属先名をつける。英文原稿の場合も、和文原稿と同様に英文と和文の両方のタイトル、著者名、所属先名を付けること。

- (2) 章建て、節建ての数字は以下による。
 章：I, II, III, IV,
 節：1., 2., 3., 4.,
 亜節：(1), (2), (3), (4),
 a, b, c, d,
- (3) 人名・地名・学術用語など特別なもの以外は、常用漢字、新かなづかいを用いること。
- (4) 年号は原則として西暦を使用し、必要があれば和暦などは（ ）に入れること。
 例：1996（平成8）年
- (5) 動植物の学名は、なるべく和名を（ ）内に併記し、イタリック体（アンダーラインを引く）を指定すること。ワープロでイタリック体印字の可能なものは、これで印字すること。
- (6) 巡検報告、書評、抄録の書き方については、最新号の書き方に従うこと。

2. 図・表

- (1) 図・表のタイトルは写植によるので、図・表の用紙には書かず、別紙にまとめて書くこと。番号は図1, 図2, . . . , 表1, 表2 . . .（文中での引用も同様）とする。図・表の用紙には該当箇所に鉛筆あるいはワープロで該当番号のみ記入すること。
- (2) 図については、製版可能にするため、製図ペンなどで墨入れの図や、モノクロで印刷したパソコン作成の図を原則とする。カラー印刷の必要がある場合、印刷費用は原則として著者負担とする。なお、負担額等については、編集委員会に相談のこと。図は縮小率を考慮して、製版の際消えるような細かい表現を避けること。不都合なものは返却のうえ、投稿者に描き直しを依頼する。
- (3) そのまま製版する表を付ける場合はスタイルと縮小率に留意すること。エクセルを使用して作成した表は、原稿受理決定後はそのままエクセルファイルで提出することができる。なお、表のタイトルは表の上に罫線の幅以内に写植で付けられる。
- (4) 写真は原則として白黒の印刷になる。
- (5) 他の文献等から図を転載する場合は、当該図の著作権所有者（学会・出版社等）から書面で許可を受け、そのコピーを送付すること。

3. 引用・注・参考文献

- (1) 本文中の文献の引用は次のようにすること
- ・ 山田 (1996) によれば
 - ・ 山田 (1996, p23) によれば . . .（特定の頁を引用する場合、その頁を示す）
 - ・ ~である（鈴木, 1968, 1970; 佐藤, 1992）
 - ・ 吉岡・松本 (1971) や Jones and Smith (1991) による

と (2人の場合)

- ・ 齋藤ほか (1986) および Johnson et al. (1992) は . . . (3人以上の場合)

- (2) 注は本文中の該当箇所の右肩に、1), 2) のように示すこと。
- (3) 注および文献は論文の本文の末尾に注、参考文献のタイトルを付し、この順にまとめて記載すること。文献は和文のものを先に、著者の五十音順に並べ、欧文のものはこの後に著者のアルファベット順に並べること。同じ著者で同一年に複数の文献がある場合は、引用順に年号の末尾にアルファベットの小文字 (a, b, c, . . .) を付する。
 単行本、雑誌中の論文などの記載を含め、記載例を以下に示す。

石水照雄 (1976) : 『計量地理学概説』古今書院。

石川 勲 (1976a) : 八幡平表層地温. 東北学院大学論集 (歴史学・地理学), 7号, 73-82.

石川 勲 (1976b) : 富士山の夏の表層地温. 東北地理, 28, 77-82.

柴 三九男 (1948) : 日本経済再建の地理学的方向. 新地理, 2 (8), 8-17. (通しページ数でなく号数も必要な場合)

シェバード, R. N. 編 : 岡本彬訓・渡辺恵子共訳 (1976) : 『多次元尺度構成法I: 理論編』共立出版社。

苦小牧市 (1975) : 『苦小牧市史 (上)』.

渡辺 光 (1956) : 海岸地形. 富田芳郎編 : 『自然地理学』朝倉書店, 283-320.

Boyce, R. R. and Clark, W. A. V. (1964): The concept of shape in geography. *Geogr. Rev.*, 54, 561-572. (雑誌の場合、誌名をイタリック体; 誌名の略号が定まっている場合は略記)

Robinson, H. (1976): *A Geography of Tourism*. MacDonald & Evans, London. (単行本の場合は書名をイタリック体)

会誌「北海道地理」は9月刊行を原則とし、毎年2月上旬を原稿締切日としています。原稿は随時受け付けております。原稿は、封筒に『投稿原稿在中』と朱書きの上、以下の住所に送付していただくか、メール（宛先：twata@ees.hokudai.ac.jp）の添付ファイルで送信してください。060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 北海道大学大学院文学研究科 地域システム科学講座内 北海道地理学会事務局（電話・ファックス：011-706-4019）。